

平成21年5月29日現在

研究種目：基盤研究A

研究期間：2005～2008

課題番号：17201046

研究課題名（和文） 旧ソ連・東欧地域における体制転換の総合的比較研究

研究課題名（英文） Comprehensive Comparative Analysis of the System Transformation in the CIS and East-European Countries

研究代表者

林 忠行(HAYASHI TADAYUKI)

北海道大学・スラブ研究センター・教授

研究者番号：90156448

研究成果の概要：

本課題は、体制変動開始から十数年を経た現在の視角から、旧ソ連・東欧地域での体制転換過程を政治と経済の両面から総合的に比較研究を行うことを目的とし、複数国を対象とする政治経済システムの形成や諸政策領域に関する具体的な制度形成などの比較研究を行い、また比較を強く意識した1か国を対象とする個別実証研究を積み上げた。併せて、計画に沿って選挙・政党データベースの作成や若手研究者を対象とする研究プログラムを実施した。

交付額

(金額単位:円)

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	8,300,000	2,490,000	10,790,000
2006年度	7,300,000	2,190,000	9,490,000
2007年度	7,600,000	2,280,000	9,880,000
2008年度	4,800,000	1,440,000	6,240,000
年度			
総計	28,000,000	8,400,000	36,400,000

研究分野:複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：政治経済学、制度、体制転換、旧ソ連地域、東欧

1.研究開始当初の背景

1989年に東欧で始まった政治変動は、ソ連の崩壊という過程を経て、旧ソ連・東欧地域での大きな体制転換へとつながった。変動の開始から十数年を経て、この地域の政治・経済システムの制度化は一定の進展を見た。この体制転換過程とその帰結を再検討し、転換の意味を問いただすと同時に、この地域の研究をより広い比較研究へと位置付けるために、比較を強く意識した研究の展開が必要であるという認識が本課題の出発点にあった。またその前提として基礎データの整理、次世代若手研究者の育成も課題とされていた。

2.研究の目的

本研究の目的は、一応の制度化が進行した現在の時点から、各国の政治・経済システム形成過程を学際的な視角から比較検討することにある。具体的には(1)政治、経済、社会にまたがる基本的問題(政治経済システムの形成や個別政策分野での各国の制度形成など)に関して比較を行い、そこでの異同を生み出す要因を分析する。(2)これらの作業と並行して、より広い比較研究の発展に資すべく、体制変動後の当該各国の変化に関する基礎的資料を収集し、研究参加者および一般にそれが共有できるものとする。(3)またこの地域の

研究については、比較という方法論を身につけ、かつ具体的な地域を対象とする実証研究を行う能力を持つ次世代若手研究者を育成することも共同研究の目的とした。

3. 研究の方法

(1) 研究参加者のそれぞれの分担に従って現地調査を行い、定期的に研究会を開催し、比較の方法論の検討を行いつつ、各研究分担者は研究目的の枠内で設定した個別研究を継続した。この地域を構成する下位地域内での比較分析を企画し、また地域間での比較も目指した。また1か国を対象とする個別事例研究においても、可能な限り他の事例との比較を意識することが求められた。

(2) データベースについては、一般的な需要が高い選挙・政党データベースの作成を目指し、京都大学地域研究統合情報センター、及び本課題の研究分担者である仙石を代表とする科研グループとの共同作業を通して、当該地域の選挙と政党に関するデータベース作成について検討会を開催し、作業を進めた。

(3) 2008年12月に国際ワークショップを開催し、成果をまとめた英文論文集の刊行準備をおこない、さらに、研究成果全体を邦語の論文集として出版する準備も行った。

(4) これらの企画には可能な限り多くの若手研究者(博士課程後期の大学院生および同修了者レベル)を加え、その過程で若手研究者の育成を図ることとし、とくに2006年12月には若手研究者自身が組織者となって、ロシア政治を専攻する若手研究者を集める研究会を開催し、その研究成果を出版するという試みも企画に組み込んだ。

4. 研究成果

(1) 比較研究の方法論としては、複数の政策領域での中東欧諸国間比較を行った仙石による一連の研究は、他の地域にも応用可能な方法を提示し、EU加盟などの国際要因は一般に考えられているほど強く作用してはならず、各国固有の経路などが重要であるという知見を提示している。林による東中欧における二大政党の相対的位置関係に注目する比較も、政党システムの巨視的比較の一方法を示すものであり、各時点での政党の路線選択がその後の政党システム形成に影響を与えたことを強調する。松里は旧ソ連諸国と東欧における準大統領制の複数国間比較を行い、西東でその立脚点異なること、東西の境目では制度が不安定であるという指摘を行った。経済では上垣が上記の政治学分野での比較を意識しながら「比較後進性論」という視角から各国の経済レベルを比較する方法論を開拓した。廣瀬はコーカサス諸国政治多角的比較を行った。バルカン地域に関する研究では民族問題を扱った月村の一連の研究は、領域性とメンバーシップのそれぞれに根ざすアイデンティティという分類での比較を

行い、その差によってユーゴスラヴィア解体後の継承諸国の安定度に差が現れることを実証した。

(2) 主な個別研究としては、ロシア政治に関して、上野が大統領制に関わる法制度面での綿密な分析を行い、制度比較の模範的方法を示しつつ、あわせて大統領の「独裁化」ではなく、ロシアなりの「政党・議会主導型統治システム」へ移行しつつあるという分析を行った。若手研究協力者として研究に参加した大串はロシア大統領府が旧共産党中央委員会と組織的な連続性があるという議論をおこない、旧ソ連地域での大統領制に関する比較研究に独自の視角を提示した。また田畑は経済統計を駆使し、比較を意識したレベルの高いロシアの経済分析を行った。藤森はウクライナの「オレンジ革命」に関する分析を行った。

(3) これらの研究成果は国際政治学会、比較経済体制学会、アメリカ・スラブ研究促進学会(AAASS)、欧州比較経済研究学会などの研究大会で発表され、学会誌等で出版された。

(4) データベースに関しては、旧ソ連・東欧諸国の17か国の選挙と政党に関するデータの集積と整理を行い、とりあえず仙石の個人ホームページにおいて「ベータ版」を公開した。このデータベースは近日中に京都大学地域研究統合情報センターによって本格公開される。なお、ポーランド、スロヴァキア、エストニアのデータについては冊子としても出版された。

(5) 若手研究者育成については、研究会の報告者に若手の研究者が加わるよう配慮したが、それとは別に2006年12月に若手研究者を中心とする「体制転換後におけるロシア内政」というタイトルの研究会を組織し、7名の若手研究者の報告が行われ、ベテラン研究者を加えた活発な討論が行われた。この時の報告はスラブ研究センターから出版された。

(6) 企画のまとめとして、2008年12月に国際ワークショップを開催し、報告者として3名の国際的に著名な研究者を英国、米国、チェコから招聘し、日本の報告者を加えて活発な討論が行われた。ワークショップの英文報告集は2009年4月にスラブ研究センターから刊行予定である。

(7) また本企画全体を包含する形で、旧ソ連・東欧地域を対象とする比較政治経済学に関する論文集の編集作業も現在進行中で、2009年度中に刊行を予定している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計42件)

① 林忠行「東中欧諸国における政党システム

形成の比較:『基幹政党』の位置取りを中心に
して』『比較経済研究』46巻1号,35-51頁(2009
年),査読有り.

②上垣彰「比較の意義について:経済学の立場
から」『比較経済研究』46巻1号,35-51頁,2009
年,査読有り.

③Tabata, Shinichiro, “The Influence of High Oil
Prices on the Russian Economy: A Comparison
with Saudi Arabia,” *Eurasian Geography and
Economics*, Vol. 50, No. 1, pp. 75-92, 2009, 査
読有り

④月村太郎「多民族国家建国の困難—ボスニ
アを例として」,『同志社政策研究』,第3号,
2009年,120-140頁,査読有り.

⑤月村太郎「体制移行と民族紛争」,日本国際
政治学会編『日本の国際政治学2 国境なき国
際政治』,有斐閣,2009年,115-134頁,査読無し.

⑥Uegaki, Akira, “EU Integration and the
‘Backwardness’ of New Member States: The
Case of Romania and Bulgaria,” in Hayashi
Tadayuki & Ogushi Atsushi (eds.), *Post-
Communist Transformations: The Countries of
Central and Eastern Europe and Russia in
Comparative Perspective*, Slavic Research Center,
Hokkaido Univ., Sapporo, 近刊, 査読無し.

⑦Sengoku, Manabu, “Welfare State Institutions
and Welfare Politics in Central and Eastern
Europe: The Political Background of the
Institutional Diversity” Slavic Research Center,
Hokkaido Univ., Sapporo, 近刊, 査読無し.

⑧Ogushi Atsushi (研究協力者), “From the CC
CPSU to Russian Presidency: The Development
of Semi-Presidentialism in Russia” Slavic
Research Center, Hokkaido Univ., Sapporo, 近
刊, 査読無し.

⑨仙石学「体制転換期の中東欧における政治
腐敗—ポーランドとスロヴァキアの事例から」
河田潤一編『汚職・腐敗・クライエメンテ
リズムの政治学』ミネルヴァ書房, 300-325
頁,2008年,査読無し.

⑩仙石学「中東欧諸国の家族政策—『新しい
社会的リスク(NSRs)』の視点から」『西南学
院大学法学論集』41巻3・4合併号,171-195
頁,2008年,査読無し.

⑪仙石学「EU-8の社会協議システム—政党政
治の視点からの分析」,『大原社会問題研究所
雑誌』595号,48-63頁,2008年,査読無し.

⑫上野俊彦「プーチン政権下の政治改革」慶
應義塾大学法学部編『慶應義塾創立150年記
念法学部論文集・慶應の政治学・地域研究』,
慶應義塾大学出版会,29-51頁,2008年,査読無
し.

⑬上野俊彦「ロシアの『政党法』と政党制—
プーチン政権下における一党優位体制の制
度的背景」横手慎二・上野俊彦編『ロシアの
市民意識と政治』,慶應義塾大学出版会,1-87
頁,2008年,査読無し.

⑭廣瀬陽子「CIS 諸国の新動向:大統領交代と
国際情勢の影響に着目して」『ロシア NIS 調
査月報』6月号,1-13頁,2008年,査読無し.

⑮廣瀬陽子「南コーカサス三国とロシア」田
畑伸一郎編『石油・ガスとロシア経済』,北海
道大学出版会,219-250頁,2008年,査読無し.

⑯田畑伸一郎「ロシアの市場経済化とエネ
ルギー貿易」池本修一・岩崎一郎・杉浦史和編
著『グローバリゼーションと体制移行の経済
学』文眞堂,221-243頁,2008年,査読無し.

⑰Tabata, Shinichiro, “The Russian Stabilization
Fund and Its Successor: Implications for
Inflation,” *Eurasian Geography and Economics*,
Vol. 48, No. 6, pp. 699-712, 2007, 査読有り.

⑱月村太郎「『東欧』の解体—コソヴォを
事例として」『ロシア・東欧学会年報』35
号,24-33頁,2007年,査読無し.

⑲月村太郎「民族的少数派となる恐怖—旧ユ
ーゴ連邦解体過程におけるセルビア人を例
として」『国際政治』149号,46-60頁,2007年,
査読無し.

⑳仙石学「中東欧諸国の環境政策—欧州化
(Europeanization)論の利用可能性」『西南学
院大学法学論集』39巻,102-164頁,2006年,査
読無し.

㉑仙石学「東欧諸国の年金制度—比較政治学
の視点からの多様性の説明の試み」『西南学
院大学法学論集』39巻4号,143-168頁,2006
年,査読無し.

㉒Matsuzato, Kimitaka, “Differing Dynamics of
Semipresidentialism across Euro/Eurasian
Borders: Ukraine, Lithuania, Poland, Moldova
and Armenia,” *Demokratizatsiya*, Vol.14, No.3,
pp. 317-345, 2006, 査読有り.

㉓Tabata, Shinichiro, “Observations on the
Influence of High Oil Prices on Russia’s GDP
Growth,” *Eurasian Geography and Economics*,
Vol.47, No.1, pp.95-111, 2006, 査読有り.

㉔田畑伸一郎「ロシア経済構造の変容」『経済
研究』57巻2号,136-150頁,2006年,査読無し.

㉕Tabata, Shinichiro, “Oil and Gas in the
Economic Transformation of Russia,” in Tabata,
Shinichiro ed., *Dependent on Oil and Gas:
Russia’s Integration into the World Economy*,
Sapporo: Slavic Research Center, Hokkaido
University, pp. 1-14, 2006, 査読無し.

㉖Tabata, Shinichiro, “Observations on Changes
in Russia’s Comparative Advantage, 1994-2005,”
Eurasian Geography and Economics, Vol.47, No.
6, pp.747-759, 2006, 査読有り.

㉗大津定美・田畑伸一郎「ロシアの年金改革」
西村可明編著『移行経済諸国の年金改革—中
東欧・旧ソ連諸国の経験と日本への教訓』ミ
ネルヴァ書房,207-235頁,2006年,査読無し.

㉘上垣彰, V・ヴァシレ「ルーマニアにおける
年金改革」西村可明編著『移行経済諸国の年
金改革—中東欧・旧ソ連諸国の経験と日本へ

の教訓』ミネルヴァ書房, 187-206 頁, 査読無し.

②⑨ 廣瀬陽子「独立 15 年のアゼルバイジャン: 石油ブームと権威主義体制の中で」『ロシアユーラシア経済調査資料』893 号, 2-17 頁, 2006 年.

③⑩ Uegaki, Akira, “Capital Flight from Russia,” in Shinichiro Tabata (ed.), *Dependent on Oil and Gas: Russia's Integration into the World Economy*, Slavic Research Center, Hokkaido University, pp. 51-83, 2006, 査読無し.

③⑪ Uegaki, Akira, “Population, Labor Force, and Social Disparity in Romania,” in Masaaki Kuboniwa and Yoshiaki Nishimura (eds.), *Economics of Intergenerational Equity in Transition Economies*, Tokyo: Maruzen, pp. 277-295, 2006, 査読無し.

③⑫ 藤森信吉「ウクライナ-政権交代としての『オレンジ革命』」宇山智彦, 前田弘毅, 藤森信吉「『民主化革命』とは何だったのか: グルジア、ウクライナ、クルグズスタン」スラブ研究センター, 23-40 頁, 2006 年, 査読無し.

③⑬ 仙石学「中東欧研究と比較政治学-いわゆるディシプリン指向の中での地域研究のあり方の考察-」『スラブ研究』53 号, 1-25 頁, 2006 年, 査読有り.

③⑭ Tabata, Shinichiro, “Price Differences, Taxes, and the Stabilization Fund,” in Michael Ellman, ed., *Russia's Oil and Natural Gas: Bonanza or Curse?* London: Anthem, pp.35-53, 2006, 査読無し.

③⑮ 上野俊彦「プーチン政権下における連邦制の改編」『季報国際情勢』76 号, 218-228 頁, 2006 年, 査読無し.

③⑯ Hayashi, Tadayuki, “EU Enlargement and Euroscepticism in Central and Eastern Europe: The ODS in the Czech Party System,” in Alexander Duleba & Tadayuki Hayashi, eds., *Regional Integration in the East and West: Challenges and Responses*, Bratislava/ Sapporo: SFPA/SRC, pp. 75-84, 2005, 査読無し.

③⑰ 林忠行「東中欧諸国と米国の単独主義-イラク戦争への対応を事例に」『ロシア・東欧研究』33 号, 47-58 頁, 2005 年, 査読無し.

③⑱ 仙石学「中東欧諸国の政策規定要因分析試論-チェコとポーランドの環境政策を題材として」『ロシア・東欧研究』33 号, 16-25 頁, 2005 年, 査読無し.

③⑲ 仙石学「ポーランドから見たアメリカ: 2 国間関係のみでは見えないもの」『環』, 24 号, 134-139 頁, 2005 年, 査読無し.

④⑰ Tabata, Shinichiro, “Observations on the Influence of High Oil Prices on Russia's GDP Growth,” *Eurasian Geography and Economics*, Vol.47, No.1, pp.95-111, 2005, 査読有り.

④⑱ Matsuzato, Kimitaka, “Semi-presidentialism in Ukraine: Institutional Centristism in Rampant

Clan Politics,” *Demokratizatsiya*, Vol.13, No.1, pp. 45-58, 2005, 査読有り.

④⑳ 上垣彰「東欧後進国家と EU: ルーマニアを例として」『西南学院大学経済学論集』第 40 巻第 4 号, 1-17 頁, 2005 年, 査読無し.

[学会発表] (計 15 件)

① 林忠行「東中欧諸国における政党システムの比較から見えてくるもの」(共通論題 1「体制比較の多様なアプローチ」)『比較経済体制学会第 47 回大会』2008 年 5 月 31 日, 高崎経済大学.

② 上垣彰「比較の意義について」『比較経済体制学会第 47 回大会』2008 年 5 月 31 日, 高崎経済大学.

③ Uegaki, Akira, “EU Integration and ‘Backwardness’ of New Member States: In Case of Romania and Bulgaria,” Slavic Research Center International Workshop on ‘Post-Communist Transformations,’ Dec.5, 2008, Hokkaido University, Sapporo.

④ Sengoku, Manabu, “Welfare state institutions and welfare politics in Central and Eastern Europe: political background of institutional diversity” Slavic Research Center International Workshop on ‘Post-Communist Transformations,’ Dec.5, 2008, Hokkaido University, Sapporo.

⑤ Tabata, Shinichiro, “Influence of the Oil Price Increase on the Russian Economy: A Comparison with Saudi Arabia,” European Association for Comparative Economic Studies, Aug.29, 2008, Moscow

⑥ Uegaki, Akira, “Fiscal Policy under Budget Surplus and Balance of Payments Surplus in Russia” European Association for Comparative Economic Studies, Aug.29, 2008, Moscow

⑦ Ogushi, Atsushi (研究協力者), “From the CC CPSU to Russian Presidency: Development of Semi-Presidentialism in Russia” European Association for Comparative Economic Studies, Aug.29, 2008, Moscow

⑧ Uegaki, Akira, “Russia's International Financing under High Oil Price,” The 40th Convention of the AAASS(American Association for the Advancement of Slavic Studies), Nov.21, 2008, Philadelphia.

⑨ Tabata, Shinichiro, “Russia's Economic Growth: Its Mechanism in 2000-2007 and Its Forecast until 2020” The 40th Convention of the AAASS(American Association for the Advancement of Slavic Studies), Nov.21, 2008, Philadelphia.

⑩ Hirose, Yoko, “Unrecognized States in the Macro-regional Context of the Black Sea Rims” The 40th Convention of the AAASS(American Association for the Advancement of Slavic

Studies), Nov.21, 2008, Philadelphia.

⑪月村太郎「クロアチアとEU加盟」、日本国際政治学会 2008 年度研究大会、2008 年 10 月 26 日、つくば国際会議場。

⑫Uegaki Akira, “How to Distribute Oil and Gas Revenues in Russia?: In Comparative Perspective,” The 39th Convention of the AAASS (the American Association for the Advancement of Slavic Studies) November 18, 2007, New Orleans, Louisiana.

⑬Tabata, Shinichiro, “The Stabilization Fund and after” The 39th Convention of the AAASS (the American Association for the Advancement of Slavic Studies) November 18, 2007, New Orleans, Louisiana.

⑭田畑伸一郎「ロシアの資本主義:資金循環から見たその特徴」第 6 回比較経済体制学会秋期大会,2007 年 10 月 27 日,法政大学。

⑮林忠行「東中欧諸国の地方制度改革と欧州化」第 9 回日本比較政治学会大会,2006 年 10 月 7 日,立教大学。

〔図書〕(計 7 件)

①Hayashi, Tadayuki & Ogushi, Atsushi, eds., *Post-Communist Transformations: The Countries of Central and Eastern Europe and Russia in Comparative Perspective*, Slavic Research Center, Hokkaido Univ. Sapporo, 2009, 近刊。

②ポスト社会主義諸国の政党・選挙データ・ベース作成研究会編『ポスト社会主義諸国・政党・選挙ハンドブック I (CIAS Discussion Paper No.9)』, 京都大学地域研究統合情報センター,2009 年, 57p.

[<http://www.cias.kyoto-u.ac.jp/files/Image/pdf/ciasdp09.pdf>]

③田畑伸一郎(編著)『石油・ガスとロシア経済』北海道大学出版会, 2008 年, 290 頁。

④林忠行・大串敦編『体制転換後のロシア内政の展開』(21 世紀 COE プログラム研究報告集 No.22)北海道大学スラブ研究センター, 2007 年, 51p.

[<http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/coe21/publish/no22/contents.html>]

⑤月村太郎『ユーゴ内戦—政治リーダーと民族主義』東京大学出版会, 2006, 308 頁。

⑥廣瀬陽子『旧ソ連地域と紛争:石油、民族、テロをめぐる地政学』慶應義塾大学出版会,376 頁,2005 年。

⑦上垣彰『経済グローバリゼーション下のロシア』日本評論社,314 頁,2005 年

〔その他〕

「ポスト社会主義諸国の選挙・政党データベース」(ベータ版)

[<http://www.seinan-gu.ac.jp/~sengoku/database/>]

6.研究組織

(1)研究代表者

林 忠行 (Hayashi Tadayuki)
北海道大学・スラブ研究センター・教授
研究者番号:90156448

(2)研究分担者

田畑 伸一郎 (Tabata Shinichiro)
北海道大学・スラブ研究センター・教授
研究者番号:10183071

松里公孝 (Matsuzato Kimitaka)
北海道大学・スラブ研究センター・教授
研究者番号:20240640

上垣 彰 (Uegaki Akira)
西南学院大学・経済学部・教授
研究者番号:70163980

上野俊彦 (Ueno Toshihiko)
上智大学・外国語学部・教授
研究者番号:80327866

仙石 学 (Sengoku Manabu)
西南学院大学・法学部・教授
研究者番号:30289508

平田 武 (Hirata Takeshi)
東北大学・法学研究科・教授
研究者番号:90238361

月村太郎 (Tsukimura Taro)
同志社大学・政策学部・教授
研究者番号:70163780

志摩園子 (Shima Sonoko)
昭和女子大学・人間社会学部・教授
研究者番号:80192607

廣瀬陽子 (Hirose Yoko)
静岡県立大学・国際関係学部・准教授
研究者番号:30348841

帯谷知可 (Obiya Chika)
京都大学・地域研究統合総合情報センター・准教授
研究者番号:3023361

藤森信吉(Fujimori Shinkichi)
北海道大学スラブ研究センター・共同研究員
研究者番号:10400053

(3)連携研究者
なし

(4)研究協力者
大串敦・日本学術振興会特別研究員(PD)